

2020 年度第 1 回グリーンチャンネル放送番組審議会 議事概要

※ 2020 年度第 1 回グリーンチャンネル（以下 GC）放送番組審議会は新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、当初予定していた東京競馬場への集合を取りやめ、郵送および電子メールを活用した意見集約を以って審議会の開催とした。

1. 資料送付 2020 年 6 月 3 日(水) … 郵送による発送日
2. 回答期限 2020 年 6 月 25 日(木)
3. 回答方法 電子メールまたは郵送
4. 審議委員 今原 照之 【元・(公社) 日本装削蹄協会 会長】
(8 名) 有吉 正徳 【(株) 朝日新聞社 記者】
石井 國範 【元・(株) 毎日新聞社 副社長】
石井 秀司 【元・(一財) GC 理事長】
塩田 忠 【(公財) 畜産近代化リース協会 理事】
白川 次郎 【フリーアナウンサー (元・ラジオ NIKKEI 社)】
外山 みどり 【学習院大学 文学部 教授】
山田 隆雄 【元・日本馬匹輸送自動車 (株) 専務取締役】
5. GC 役職員 理事長：山川雅典
常務理事：清水昌昭、鳩山正仁
理 事：伊藤裕 (兼経営企画部長)
編成制作部長：片貝裕紀
事務局 (編成制作部)
6. 主な議題 2019 年 12 月 1 日～2020 年 6 月 14 日の放送番組について

議事概要（意見集約）

2019 年度第 2 回放送番組審議会 議事概要の公表について（報告）

2019 年度第 2 回放送番組審議会の議事概要は、2019 年 12 月 20 日 10:00、GC ホームページにて公表済み。

<委員>

- 指摘無し（承認）。

<GC>

【前回審議会以降の GC の取組みの紹介】

- 海外競馬中継および関連番組の充実（継続）。
 - 現場のホースマンに光を当てた放送番組の制作（継続）。
 - 解説者に専門家（引退調教師など）の起用を推進（継続）。
 - 畜産番組の編成方法の改善（完了）。
 - 番宣の効果的な活用を推進（継続）。
 - 「GC 放送番組の編集の基準」の遵守（継続）
 - 新型コロナウイルス感染拡大防止への取組みと放送事業の継続（新規）
 - 無料放送に関する視聴者問い合わせへの個別対応（新規※）
- ※ 一部の課金契約者から、無料で視聴できることへの不公平感が寄せられたため。

2019 年 11 月 30 日～2020 年 6 月 14 日の放送番組について（意見集約）

【放送番組総評】

<委員ご意見>

- 全体的には、番組の量・質（海外競馬中継もあり）ともに充実してきている。
- 海外競馬関連番組も充実してきている。
- 『競馬場の達人』は、最近よく知らない出演者が多くなっている感じがする。誰もが知っている著名人の方が、面白いと思う。リベンジで再登場も大いにありだと思う。
- 番組がマンネリ化しないためには、新たな出演者を起用していくことも必要だと思う。村本浩平氏を起用した『アルゼンチンの馬産地』と『アルゼンチンの競馬場』は新鮮味があった。GC が番組制作を通じて「競馬人」を育てていくことを期待している。
- 「アルゼンチンの馬産地」を興味深く視聴した。競馬を広く深く理解できる情報提供番組は興味深いため続けてほしい。場外紹介の『にっぽん漫遊ウインズの旅』なども

同様である。

- POG 関連の若駒紹介番組はひろく競馬ファン獲得、競馬の面白さが広がる良い番組である。できれば、放映時期はできるだけ早く、年始早々から少しずつ提供するほうがいいのではないか。(通常ダービーからダービーまでが1年、ダービー時には選定済みで、その前後の放映では遅い)
- 宮崎北斗騎手の『脳エクササイズ』は良企画だったと思う。宮崎騎手もうまかった。
- 新進の調教師の紹介番組を企画したらどうか。新しい調教師が出て活躍しており、それぞれの厩舎の紹介、馬の紹介、どのような考え方、調教方法など特徴を紹介。数人での座談会も良いだろう。
- 種牡馬紹介の番組はどうか。特に新規とか産駒初デビューとかその血統・母系や特徴など(血統専門家の話を中心に、そのほか育成馬の厩舎、育成センター関係者・記者の話などをまじえて)。
- 畜産については、朝 2 時間枠を設定しているので、可能であれば、それ以外の昼夜時間のステーションブレイクなどで、ショートの番宣『がんばる畜産 1~3(無料)』の放映をすれば良いのではないか。

<GC から>

- 海外競馬は、2019 年 12 月 8 日の『2019 香港国際競走』をはじめ、2020 年 2 月 29 日の『2020 サウジカップデー中継』および 4 月 11 日の『クイーンエリザベス S 中継(JRA 馬券発売あり)』が無事に放送できた。
- 『にっぽん漫遊ウインズの旅』について、一部の回の放送時に無観客競馬が始まっており、WINS への来場が不可能だった。番組内容が好評だっただけに、企画・制作者の狙いからすれば残念であった。
- POG の放映次期については、委員のご指摘通りであると認識している。本年はスタジオエリアの感染拡大防止対策との関係で、収録時期が遅くなってしまった経験を今後に生かすことにしたい。

【指定番組の評価】

DVD1 : 『鈴木淑子のホースマンに乾杯！ Special～山内研二』

<委員ご意見>

- 名言の宝庫であった。「道悪のうまい馬はおなかが汚れない」など、示唆に富んだ言葉が心に残った。
- 山内調教師本人が忘れていたことをインタビュアーの鈴木淑子さんが思い出させるシーンも印象的だった。
- 引退されるすべての関係者がこのような形で記録に残れば素晴らしいと考える。

- 鈴木淑子さんならではのインタビューを生かしたシリーズ番組。今回も山内研二調教師の人格、彼の競馬観、馬に対する接し方等々が浮き彫りにされていき、とても興味深かった。今後も楽しみな“シリーズ番組”の一つであろう。
- 対談番組の魅力は、その人の確固たる信念に出会えること。山内調教師の信念は、良い馬に出会うために多くの場所（日本に限らず）でたくさん馬を見ること。預かった馬は毎日観察し、異常を早く見つけ故障を避けること。それらの馬にできれば G I を取らせることだという。これらのことは普通のことと思いがちだが、馬の観察を毎日欠かさず真剣にやりきった所が素晴らしい。ことを成した人は日々の心構えが違う。
- 鈴木氏は調教師の馬に対する信念をうまく引き出してくれたと思う。
- ホースマンの人生に触れる番組として、師が競馬にかかわるまではうまく整理されている。一方で、騎手から調教師に転じた後の長い期間については、やや単調であった。調教師の場合、成績の良い・悪い時期の想い・取組み、信念に関する Q&A、さらに情報・知見、試行錯誤、評価など、注目すべき点は多い。その人柄を引き出すために、場所を変えたロケや取材の範囲を広げる(厩舎、馬主、騎手、調教師)演出も有効だ。
- 長時間、一人の時間だけを追いつづけた場合、ときおり訪れる単調感をどう打破していくか。かなり多方面に角度をつけた取材の素材と、会話の内容が要求され、どう構成していくのかに注目した。さすがにしっかりと手間と時間をかけた、丁寧な取材がされていて感心した。それから何といても淑子さんのゲストに対する心配り、気づかいは見えていても心地よく、話の引き出し方の巧みさも加わって、ゲストが気分良く本音を語っていることが見てとれた。全体に興味深く見せて頂いたが、ほんの少しだけ長い印象が残る。取材の角度、あるいは処理の仕方にもう一工夫あればということがこれからの期待である。
- 今は 2 歳の早期デビュー馬の活躍が見受けられるようになっているが 20 年前はそうでもない中、山内さんは 2 歳馬を早めに仕上げ、名をあげていた。そういったところも良く出ていたと思う。もう少し本人の趣味とか、酒が好きなのかとか、くだけたところもあって良いのでは。
- 山中研二調教師の 46 年の競馬人生、穏やかでまじめな人柄がよく描かれていたと思う。ダービーよりもむしろ桜花賞にまた勝ちたかった、というような言葉も印象に残った。

<GC から>

- 真正面から競馬人生を紹介しようと制作に力を入れた番組であり、反響もほぼ狙い通りであるが、やや長く感じるとのご意見を賜ったことから、次回作は構成や演出に、さらなる工夫を加えたい。

DVD2 : 『英国の若き天才 密着！オイシンマーフィー』

<委員ご意見>

- 近年活躍の目立つ若い外国人騎手はマーフィーにしてもレーンにしても、とても人柄が良く、驚くほどシャイである。しかし、このドキュメンタリーを見ると、控えめではあっても芯の強さを持っていることがわかった。トレーニングや、滞在先、パーティーで見せる、それぞれの表情からマーフィーらしさが良く伝わった。
- タイムリーな番組。オイシンマーフィーの強さの秘密、一流ジョッキーは何が違うのかが解明された。海外のレース映像も多く使われ、グローバル観が印象づけられた。
- 通訳の安藤氏とエージェントが元騎手ということで、面白かった。どうしてあのような関係になったのかという点は、もう少し掘り下げて良かったのではないだろうか。
- 若干 24 歳。英国のリーディングジョッキーでありながら日本馬の能力の高さを認め、JRA の短期免許で挑戦し実績を残している。騎乗に際し、騎乗馬の過去のレース映像を緻密に分析しているのはさすが。その中で、ある馬の次走について、「メンコを外すように」と、エージェントを通じて調教師に連絡をしているのには驚いた。メンコの効用を即座に判断している。若手騎手でありながらエージェントと人間関係をうまく構築するなど大人びている。
- 世界で活躍する騎手、それも若手のジョッキーのドキュメンタリー番組ができたことが素晴らしい。内容的にも生活密着で、トレーニングの汗、事前打ち合わせ、宴会風景など多面的で、努力・人柄が出ており素晴らしい作品であった。秀逸の内容であるので、放送番組のコンテストに出品して紹介する等ができないか検討されてはどうか。映像権、使用範囲、契約等制限があるかもしれないが取材先と調整してはどうか。
- ジャパンカップの創設以来、海外の馬、そして海外の騎手を興味深く見つづけてきた。当時のトップジョッキー達（岡部幸雄、柴田政人両騎手）に日本のジョッキーと海外のトップジョッキーとはどこが違うのか質問したところ、「技術面で日本人ジョッキーが劣っているとは思わないが、結果が歴然と違ってきているのは事実。」と認めていたことを思い出す。それ以来、海外から多くのトップジョッキーが来日し、しっかりと結果を出していくのを数多く目にし、「どこが違うのか」という疑問を持ちつづけ、今回のマーフィー騎手の考え方・コメントに注目して番組を見た。番組ではマーフィー騎手の基本的な考え方、そしてレースに向かって取り組む姿勢・情報収集・一週間のルーティンが忠実に紹介され、興味深く思い納得もした。ただ、日本人の騎手も現在ではかなり共通点が多いことは事実だろう。つづいて紹介された戸田・庄野・国枝各調教師、ファン、トレーナー、エージェントと様々な角度からのコメントには納得もし、満足感があり、総体的に厚みのある歯ごたえを感じられる番組であった。これからも、優れた騎手の特性とはどんなものなのか、機会があるたびに知りたいと思う。シリーズ化が楽しみである。
- 欧州の騎手にとって、日本の競馬と関係をもつことがその後につながると意識させる

ほど、日本の競馬のレベルが高まったことをよく判ってもらえる内容だった。初勝利の映像は貴重だったのでは。エージェント、通訳との画面はファンにとっても新鮮だ。

- 熱心なトレーニングぶりなどが印象的だった。外国のリーディングジョッキーにとっても日本の競馬が魅力的であることがわかった。現在、短期免許で日本の競馬に騎乗している外国人騎手は現在どれくらいいるのか、過去との比較なども知りたく思った。

<GC から>

- 時宜を得た番組として良質なテーマであると考え、自信をもって制作を進めた。GC および制作会社の人脈をフルに活用してトレセン関係の出演者各位にアプローチし、セッティングと作りこみに力を入れた。放送番組としての完成度は GC としても満足できるレベルと考えている。制作にご協力いただいた厩舎関係者の皆様に深謝する。

【新型コロナウイルス感染症と放送番組の関係】

<委員ご意見>

- GC が競馬番組の放送をうまく提供できるか心配したが、番組の内容に問題はなかった。予定企画の削減を余儀なくされたと思うが、GC の配信努力を多としたい。
- 海外競馬も、各国とも程度の差こそあれ、無観客競馬、競馬の中止、重賞競走の延期等を余儀なくされた。再開されたとき、どのように放映していくか、その企画に工夫が求められるように思う。
- 東京オリンピックも 2021 年に延期された。今後、馬術関係の番組の放映にも期待する。
- 番組制作に多大な影響があった中、無事に放送できたことに敬意を表する。今後も安心して見られる番組を期待している。
- 番組の視聴を通じて、番組編成、撮影、編集等で GC が感染拡大防止対策を実行していることがわかりやすく伝わってきた。
- 今後とも予断は許されないが、通常に戻していく過程を視聴者に向けて、テロップ等で事前に紹介する工夫をしたら良いと思う。
- 競馬場にもウインズにも行けず、ましてや日々の行動に多くの制約が課された中、GC の競馬中継にずいぶんいやされた。スタッフに感謝する。
- さまざまな困難が生じた時期、放送対応に苦労と努力があったことと思う。中央競馬が早期に通常に戻ることを祈りながら、今回の経験が今後に生きることを願っている。

<GC から>

- JRA からの依頼に基づき、GC は無観客競馬が始まった 2 月 29 日以降の『中央競馬全レース中継』および『パドック中継』について、一部媒体を除き、無料放送とした。また、緊急事態宣言が発令された 4 月 7 日以降は、「感染症拡大防止」を徹底するため、

スタジオエリアの 3 密回避を目的に『パドック中継』を休止し、併せて月曜日～木曜日のレギュラー番組のスタジオ収録を中止した。その他、独自に定めた厳しいガイドラインに沿って感染拡大防止の徹底に努め、『中央競馬全レース中継』を最優先しながら放送を継続した。

- スタジオ収録を中止した番組やその他の番組についても、過去の放送資源を活用した編集、外部施設での収録、公開収録番組の無観客化、出演者のリモート化など、可能な限りの感染症拡大防止対策を取りつつ放送を継続した。
- 『中央競馬全レース中継』の無料放送については、今回の状況下で GC が果たすべき社会的責務として実施したが、多くの視聴者から肯定的な意見を賜った一方で、一定数の契約者からは課金を続けることへの不公平感が寄せられた。
- GC の視聴料は月極であるため、ご契約中の視聴者様へ向けて、「月末までに解約すれば翌月からは課金されない。」といった内容のお知らせを GC ホームページに掲載した。
- 放送を休止した『パドック中継』については、緊急事態宣言解除後初の 3 場開催週となる 6 月 13 日以降、新たな物理的対策（フェイスシールド着用）を講じて再開した。
- 新型コロナに関連した GC の取組みについて、委員から寄せられたご意見が概ね肯定的であることに感謝する。

【その他ご意見】

<委員ご意見>

- 委員が一堂に会して意見交換する通常どおりの審議会の良さを痛感させられた。
- 無観客が解除されたら、競馬場に行きたくなる様な企画を GC にも考えてほしい。
- 世の中が落ち着いた後、事業イベントを活用した視聴契約者参加方の企画に期待する。
- ドローン機器を使うとどんな映像になるのか興味がある。いろいろと見てみたい。
- 中谷雄太騎手が引退した。彼のような人が調教解説をしてくれれば、かなり話題になると思う。

<GC から>

- 放送番組審議会からの指摘を参考に、GC はこれからも良き放送番組の企画・制作に取り組む。
- 2020 年第 2 回 GC 放送番組審議会については通常通りに開催できることを願うが、現時点では競馬場への入場等がどのような状況になるか予測がつかない。時期がきたら、開催場所や方法等を適切に判断して調整したい。

以上